



杉浦 康憲 議員

新型コロナウイルスの影響による学校の対応について

問 臨時休校での学習の遅れを取り戻すのに、どのように時間数を確保するのか。

答 ①42日間の夏季休業を16日間に短縮し、午前中の4時間授業を実施する。

②感染防止も含め学校行事を見直し、中止とすることで、練習時間等を授業時間に充てる。③短学活（ショートホームルーム）の時間を利用して学習を進めたり、授業を5分程度短縮して、7時間目を生み出したりする。④今年度の年間指導計画を改めて作成し、効率よく学習が進められるようにする。

問 昼時間の下校は、熱中症の心配もあり様々な配慮が必要だが、例えば、小学生だと黄色の制帽はあまり機能的ではないので、違う帽子の着用や日傘などの使用はいかがか。

答 暑さ対策として、日傘の使用や安全帽子よりもつばの大きな帽子の着用を認めていく。

また、学校に学習用具を置くことも認めていく。

問 中学校3年生が受験を控えている中、導入予定の一人一台タブレットを十分に活用して受験生に対応して欲しいと思うが。

答 タブレット端末は、当初、小5・6年、中1から配付予定であったが、学校の臨時休業が続き、高等学校入学試験に向けて中学校3年生に優先配付し活用していく。

問 ウイズコロナの中、今後、高浜の子どもたちに対し、どんな学校を思い描いているのか。

答 子供たち一人一人をしっかりと見つめ、寄り添い、心のケアにしっかりと取り組んでいき、子供たちが通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校、子供たちの笑顔が輝く学校を早く取り戻したいと考えている。

教員が子供たちに身につけさせたい力を意識し、目の前の子供たち一人一人をしっかりと見つめ、身につけさせたい資質や能力を明らかにし、そのために何をどう学ばせるのかを真剣に考えながら教育活動を展開し、生きる力、知・徳・体、バランスの取れた育成に努めてまいりたいと、そんな学校を頭に描いている。



神谷 利盛 議員

令和元年度事業の進行状況等について

問 広報たかはま発行回数変更（2回／月→1回／月）による、メリット・デメリットは。

答 メリット：印刷費等で約173万円の削減。事務工数の削減。

デメリット：今回のコロナ禍のような場合に、直近の情報伝達が出来ない。今後、発行回数の追加等柔軟に考えたい。

問 滞納整理システム構築（約2,400万円で導入）の効果は。

答 納付催促書送付：前年度比2倍。財産調査件数：前年度比約4倍。徴収率+0.1%等効果が認められる。

問 今回のコロナ禍のような緊急財政出動が必要な事態が発生した場合、一定の基金残高を備えておく必要があるが、どのような備えをしているのか。

答 リーマンショックの経験から、標準財政規

模の10%（約10億円）の確保を目標にしている。令和2年度の予算ベースでは、財政調整基金残高約14.6億円。公共施設等整備基金残高約5.6億円。

問 今回のコロナ禍では、リーマンショックを上回る経済危機に陥る可能性がある。危機管理とは、最悪の状況を予測し、それに対する対策を事前に構じておくこと。市は、歳出削減策も含め、長期財政計画の改訂版を至急作成すべき。

答 長期財政計画は、当初予算作成時に直近の決算額に置き換えて見直しを行う。市税収入の減少額が予想できないので、修正版の作成は出来ない。コロナ禍によって見送った事業費の削減、歳出予算の組替え、事業そのものの見直し、経常経費の削減にこれから取り組んでいく。

問 「高浜市人口ビジョン」（2015年作成）による実績値と予測値及びその差の要因は。

答 2015年実績：46,633人。2020年予測：47,823人（+1,310人）。2019年実績：49,133人（+2,500人）。+2,500人の内、61%が外国人。要因は、自動車関連企業への就職が多いこと、宅地価格が近隣市より比較的に高くないこと等が考えられる。